



開催日時：2019 年 10 月 27 日（日）

場 所：東京大学本郷キャンパス 医学部 1 号館 S309

参加者数：10 名（+ 話題提供者等）

話題提供者： 有山裕美子さん

（工学院大学附属中学・高等学校）

ファシリテーター進行等：荒井 翔平さん

（特定非営利活動法人 Rights 理事、

一般社団法人生徒会活動支援協会理事長）



有山さんによる講義

今回の TOKYO スタディ・スタヂオでは、図書館の視点からシティズンシップ教育について考えました。話題提供は有山裕美子さんから、ファシリテーターは荒井翔平さんにしていただき、10 名と話題提供者で議論を深めてきました。

前半の部では、最初に有山さんから、情報活用能力の教育を取り巻く状況について、講義をして頂きました。Society5.0 の考え方や新学習指導要領が目指す方向性、日本人の SNS との関わり方の特徴をはじめ、今の情報活用能力の教育がともすると、パソコン・インターネットの活用能力の教育になることへの懸念なども指摘されていました。また、有山さんの学校での授業を紹介して頂き、「デザイン思考」を基にして、生徒自身が電子書籍を作る実践や、日常のマスメディアの情報の妥当性を吟味するアクティビティなどについても紹介してもらいました。



荒井さん進行によるブレイクトーク

後半の部では、有山さんから別の実践についても紹介していただきました。生徒が電子雑誌「探究マガジン」の作成する実践では、プロジェクトを進めることを通して、生徒が自然と自分が発信する情報の正確さや著作権等に目を配るように工夫がされていました。有山さんが最も生徒に伝えたいこととして「自分も他人も傷つけない」という言葉を大切にされているのが、有山さんの全体の話題提供を象徴しているようで、とても印象的でした。最後に、米国の「児童・生徒の情報リテラシー基準」についてご紹介いただくと共に、生涯教育としての公共図書館の意義についても、荒井さんから総括してもらいました。

前半・後半の講義の間には、ファシリテーターの荒井さんの進行のもと、いくつかのテーマに即して意見交換をしました。グーグル検索で大半の情報が集められる時代の図書館のあり方とは何か。ソーシャルメディアの使い方を学校で教えることの是非等、様々な論点が参加者から出ました。

次回の TOKYO スタディ・スタヂオは 12 月 7 日に開催予定です。詳細は改めてホームページや Facebook 等でお伝えします。多くの皆様の参加をお待ちしております！！

（Vol.4.の主な企画・運営スタッフ：古野香織・浜田未貴・小田切瑞生・別木萌果 報告担当：齊藤仁一郎）